

# ■ 2009年度 入試問題分析シート ■

千葉大学 文・法経学部

前期日程

科目

国語(古文)

試験時間	90分	満点(配点)	文200点、法経(法200点、 経済・総合政策150点)	出題数	現代文1題、古文1題、漢文1題			
総括					難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
					分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

## 〈総論〉

問題文は昨年度の880字程度から約200字ほど短くなり、本文そのものも、昨年度よりやや読みやすくなっていると言えよう。ここ数年、和歌が含まれる文章が選ばれていたが、本年度の問題文に和歌は見られなかった。解答を作成するにあたって若干困難があるとすれば、注の内容を説明問題の解答に取り込んだり、文意に合わせて現代語訳の表現に工夫が求められたりする点であろう。設問数は枝問の総数が10で、昨年度と変わりがない。昨年度にはなかったような、現代語で用いる四字熟語に言及した設問や文学史の設問が増えたが、全体の記述量は減少した。

## 〈合格への学習対策〉

まず、古典文法や語法の知識を習得し、語彙力を整備して、読解のための基礎力を養成することである。その上で現代語訳問題では文意に沿った訳文を作り出すことができるよう、また、説明問題では出題者の意図を正確に把握して解答作成に生かしてゆけるよう、記述の練習を繰り返すことが必要となってくる。

## 問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
第二問	説話	『十訓抄』(鎌倉時代の1252年に成立。六波羅二藤左衛門の著作とされる)	『十訓抄』の出題はさほど珍しいことではなく、昨年度は愛知教育大学、早稲田大学法学部、日本大学商・経営学部、日本女子大学家政学部などで出題がある。	やや易

## 設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
第二問	一	記号選択	文法。助動詞「る」の用法を判別する。選択肢には、助動詞「る」ではないものも含まれる。文法問題であるが、解釈と関連づけて考察することが必要。	標準
	二	記述	短い語句の現代語訳。基本的な語彙力が問われている。	やや易
	三	記述	四字熟語を指摘し、その意味の説明をする。現代語の語彙力を試す設問。	易
	四	記述	傍線部に表現された内容の説明。傍線部を正確に解釈したうえで、指示語の内容を具体化したりする作業が必要となる。	標準
	五	記述	登場人物の行動について、そのように振る舞った理由の説明。傍線部から離れたところに書かれている、該当人物の発言に注目する必要がある。	標準
	六	記述	現代語訳の設問。訳語の選び方、繋げ方に工夫が求められる。	標準
	七	記述	傍線部に表現された内容の説明。注を踏まえた説明が必要となる。	やや難
	八	記号選択	文学史。作品の成立年代に関わる出題。	やや易

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。